

14. 四ツ谷用水のあれこれ

仙台北城下を潤した水の道「四ツ谷用水」

■仙台北城下建設と「水」

・ 広瀬川の河岸段丘（上町段丘、中町段丘、下町段丘）上に、城下町を建設すると、広瀬川から直接取水することは困難

標高差：広瀬川（大橋付近）23.0m 大町西公園付近 43.0m

・ 複数の湧水箇所があった。一方排水の問題もあった

仙台の清水：山上清水、柳清水、鹿子清水、大清水（清水小路）など

・ 推定 52,000 人の城下町の人々の暮らしのためには、十分な水の確保と排水が欠かせない

⇒ 水を行き渡らせる用水路「四ツ谷用水」を計画・建設



計画：川村孫兵衛重吉

四ツ谷堰奉行：宇津志惣兵衛

龍寶寺境内圖（令和版）一部

原図：宮城県図書館蔵

寛延 3-4(1750-51) 年制作

「四ツ谷の水を街並みに！市民の会」

村上英寛氏より提供

■四ツ谷用水の用途と整備

・ 生活用水、防火用水、排水、地下水の涵養、農業灌漑用水

・ 藩、町方、下流の村で 3 分の 1 ずつ負担（受益者負担）

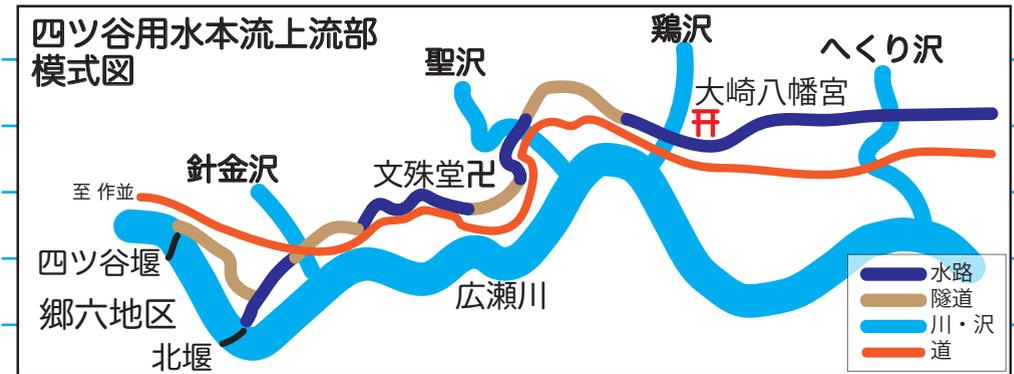
・ 主に町屋敷では道の中央を、侍屋敷では道の端を流れていた

【No.14】

2021年9月8日

■四ツ谷用水の流路

支倉なにと
ONLINE



・ 広瀬川上流部の郷六地区（北堰 64.0m）から取水

・ 針金沢、聖沢、鶏沢、へくり沢の4つの沢（谷）を木樋で越える「四ツ谷用水」の名の由来？

・ 初期には3ヶ所（後に4ヶ所）の隧道（トンネル）を通る

・ 本流は北六番丁を流れ、終点は梅田川（宝蔵院橋付近）

・ 本流から支流が何本も別れており、城下全体を潤していた

・ 全長約 44km、本流の勾配 1000 分の 3.5

トンネル内は 1000 分の 1.2 で現代の工業基準にも適合

■四ツ谷用水の歴史と現代

・ 寛永 4-6 年（1627-29）に着工・完成（一部か、宇津志家提出記録）

・ 全体の完成は元禄年間

・ 明治時代、衛生状況悪化から本流（桜川）を除き姿を消す

・ 戦後桜川も暗渠に。工業用水として利用。復活を望む声多数